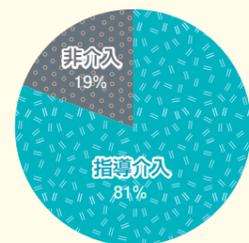


数字でみる錦海リハ

"お薬を飲むこと"を 日常に取り入れていただくために…。

平成29年8月1日～平成30年7月31日の過去1年間に216名の入院患者さんがあり、薬剤指導として介入した患者さんは174名でした。当院に入院される方のほとんどが入院前からお薬を服用しておられます。入院中はもちろん退院してからも継続していただく方が殆どです。

患者さん自身が、あるいはご家族が積極的に服薬治療に参加できるよう関わっています。



薬剤指導介入状況
H29.8～H30.7

総入院患者数
216名
指導介入患者数
174名
非介入患者数
42名

新任医師のご紹介

10月1日より、大谷侑資医師が着任いたしました。

リハビリテーション科 大谷 侑資 (おおたに ゆうすけ)
出身大学:鳥取大学医学部

大谷先生から一言

リハビリは医療や介護・福祉、予防といった幅広い分野で活かすことができます。地域の皆様のニーズ(本当に必要としていること)を探求し、それに応えられるようなリハビリを提供できるように尽力していきます。



リハビリテーション科 大谷侑資医師

専門雑誌・書籍掲載

角田賢(医師・病院長)、岡本悦子(作業療法士・リハビリ技術部係長)
通所リハビリテーション 減収をカバーするのは原点のリハビリ機能
日経ヘルスケア2018年7月号、日経BP社、2018.7

角田賢(医師・病院長)
特集「リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018」開催にあたって
日本リハビリテーション病院・施設協会誌2018年夏No.167、日本リハビリテーション病院・施設協会、2018.8

外部講演

角田賢(医師・病院長)
2018年医療・介護報酬同時改定 何が変わったのか 医療機関の変化が介護分野にどう影響するか
松江市在宅医療・介護連携支援センター公開講座 こんなところが変わった!地域の医療・介護～2018年 診療報酬・介護報酬改定～、松江市在宅医療・介護連携支援センター主催、2018.5.14、松江市

長崎正義(理学療法士)
腰痛予防のための知識と体操
第38回アクティブシニア健康教室、2018.5.25、安来市

木佐高志(言語聴覚士)
言語聴覚士ができる介護予防の取り組み
平成30年度地域包括支援センター職員研修会(初任者向け)、2018.6.14、倉吉市

井後雅之(医師・名誉院長)
脳卒中の地域連携、回復期リハから地域包括ケアへ
Stroke Seminar in Yonago、2018.6.15、米子市

野坂進之介(理学療法士)
認知症予防のカギとなる「生活習慣の改善」について学ぶ
第39回アクティブシニア健康教室、2018.6.22、米子市

松橋菜実子(言語聴覚士)
失語症向け意思疎通支援者養成事業 ～一般社団法人山陰言語聴覚士協会の取り組み～
第19回日本言語聴覚学会 失語症者向け意思疎通支援者指導者研修会修了者のつどい、日本言語聴覚士協会主催、2018.6.22-23、富山県

今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、野坂進之介、遠藤美紀、足立睦未、烏谷香蓮(理学療法士)
「学・動・食」で防ぐ認知症対策
認知症予防に関するワークショップ、大江ノ郷自然牧場主催、2018.6.29、八頭郡

岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
口腔機能の話と予防体操 いつまでもはつきりしゃべるためのコツ
米子市地域リハビリテーション活動支援事業、米子市主催、2018.7.28、米子市

杉原健太郎(理学療法士)
腰痛・膝痛・肩痛等の予防について
米子市地域リハビリテーション活動支援事業、米子市、2018.8.22、米子市

角田賢(医師・病院長)
全身管理とリスクマネージメント 回復期リハビリテーション病棟におけるリスク管理
回復期リハビリテーション看護師認定コース、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2018.9.18、東京都

学会発表

長崎正義(理学療法士)
心疾患の既往がある利用者に対して、活動量計、心拍数を用いて運動強度を設定した一例
第12回日本訪問リハビリテーション学術大会 in 北九州、2018.6.16-17、福岡県

島畑紗綾(言語聴覚士)
回復期病棟での看取り～QOL向上のためお楽しみの経口摂取に着目した一症例～
第16回日本臨床医療福祉学会、2018.9.6-7、東京都

平野正樹(作業療法士)
高齢者向け住宅への訪問リハにおいて排泄動作自立に難渋した一事例

村上英里(作業療法士)
車椅子操作手順を系列化することで動作を習得した配分性注意障害の一例
第52回日本作業療法学会、2018.9.7-9、愛知県

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時典のものであり現在は変更があります。

診療方針: わたくしたちは
回復的リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300【代表】
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL

NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行: 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL: 0859-34-2300【代表】
E-mail: kinkai-hp@kohoehn.jp
URL: http://www.kinkai-rehab.jp

2018
VOL. 08

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院 リハビリテーション・ケア 合同研究大会米子2018を終えて

大会メインテーマ「互恵互助 ～お互いが助け合い、お互いが幸せを分かち合う～」

10月3日、4日の2日間、米子コンベンションセンターと米子市文化ホールを会場としてリハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018を開催しました。ちょうど台風が連続して上陸する時期と重なりましたが、2日間とも天候に恵まれ、心配していた交通機関の乱れも最小限で済み、全国から1800人あまりの方に参加して頂き、無事に開催することができました。



リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018開会式での角田賢病院長(大会長)の挨拶

この大会は、急性期から回復期、生活期、医療から介護、さらには介護予防や看取りに関することまで、全ての分野のリハビリテーションとケアに関する研究大会です。今大会では2日間で790の一般演題の発表が行われ、各会場で活発な議論が行われま

した。この他、7つの教育講演、2つの特別講演、2つのランチョンセミナー、1つの市民公開講座を行い、医療を支えるIT技術、今後の医療福祉政策、脳卒中後の自動車運転再開の問題、さらには終末期リハビリテーション、看取りなど幅広い分野にわたってご講演いただきました。明日からの仕事にすぐに役立つものから、今後の生き方、仕事への取り組み方を考える基礎となるものまで内容は様々ありましたが、参加者それぞれに何か一つでも、この大会に参加して持ち帰ってもらえるものがあればと考えています。



廣江研理理事長(名誉大会長)による基調講演「互恵互助～私の人生を振り返って～」

この研究大会は毎年全国各地で開催されてきましたが、山陰では初開催となりました。初めて山陰を訪れた方も多だろうということで、山陰の味覚を存分に味わっていただくために、会場前には食のみやご鳥取県のテントを設置して頂き、牛骨ラーメン、あごカツカレー、ハンバーガー、大山おこわなど、様々な地元の食材を使った料理を出店していただきました。更に全体懇親会でもベニズワイガニ、鳥取牛、あご野焼き、鳥取の地酒や地ビールなど存分に堪能してもらうことができました。「米子に来て良かった」と言ってもらうことを目標



米子コンベンションセンター1Fロビー 総合受付

に病院スタッフ、こうほうえん職員で協力して準備をしてきたこの1年でした。たくさんの参加者の笑顔を見られたことで、この大会を開催した価値があったのではと思っております。ご協力いただいた皆さんにも大変感謝しております。ありがとうございました。

リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018 大会長
社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

SPECIAL 最前線 2

リハビリテーション・ケア 合同研究大会米子2018は 盛会のうちに終了いたしました。

角田賢病院長が大会長を務め、10月3日・4日に米子コンベンションセンター BiGSHIP、米子市文化ホールに於いて、リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018を開催し、1,836名の参加を得て盛会のうちに無事終了することができました。

ご参加をいただきました皆様、ご協力をいただきました各方面の方々に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

主催：(一社)日本リハビリテーション病院・施設協会、(一社)回復期リハビリテーション病棟協会、(一社)全国デイ・ケア協会、(一社)日本訪問リハビリテーション協会、全国地域リハビリテーション研究会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会



ランチョンセミナーの様子



食のみやこ島取県グルメブースの様子



企業展示会場の様子



一般演題のポスター発表会場の様子



無事に大会を終えて、運営スタッフ集合写真

SPECIAL 最前線 3

リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子2018 市民公開講座『地域包括ケア時代の 看取りを考える～その人らしく生き、 その人らしく死ぬということ～』

リハビリテーションケア合同研究大会米子2018では、市民公開講座として、「地域包括ケア時代の看取りを考える -その人らしく生き、その人らしく死ぬということ-」というタイトルで、地域リハビリテーションの先駆けでもあり、終末期リハビリテーションを提唱された、大田仁史先生と、いなば幸朋苑総合施設長として長年に渡り、看取りに取り組んでこられた加藤一吉先生にご講演頂きました。



講師の茨城県立健康プラザ 管理者 大田仁史先生

今大会の参加者に加え、一般市民の方68名もこの講演を聴きにきていただくことができました。地域包括ケアの時代、人間らしい生き方の重要性、リハビリテーションは右上がりの良くなっていくものだけを評価するのではなく、右下がり(とんどん衰えていく時期)を支えることの重要性についても評価すべきであるというお話は印象的でした。また23年間、500人以上の方を看取ってきた加藤先生のお話では、その人らしく最期を迎えるための意思を明確にする事前指示書とそれを叶えるために職員全体でサポートする体制を作られてきたことに感銘を受けました。



講師の社会福祉法人こうほうえん いなば幸朋苑 総合施設長加藤一吉先生

その人らしく人生の最期まで生きるといふ地域包括ケアの実現に向け、我々がなにをすべきか、示唆に富んだ講演でした。

SPECIAL 最前線 4

薬剤室の紹介 薬剤師のお仕事

回復期リハビリテーション病棟での 薬剤師の仕事を紹介します。

当院薬剤室では、薬剤師2名で他の医療スタッフと連携を密にとりながら医療チームの一員として、薬剤業務に従事しています。薬の飲み方や作用をわかりやすく説明する、相互作用や副作用の防止に努める等、薬の専門家としてその知識を生かし、より良い薬物治療が行なわれるよう協力しております。また、薬剤の品質・在庫管理、発注、供給などトータルな医薬品管理業務を行うことで、安心できる薬剤を供給できるよう努めています。



薬剤室での薬剤の品質・在庫管理

TOPICS 01 日本訪問リハビリテーション協会の 宮田昌司会長による講演会を 開催しました

8月5日、第12回こうほうえんリハビリスタッフ合同勉強会をさかい幸朋苑にあるナマステホールにて開催しました。講師に日本訪問リハビリテーション協会の宮田昌司会長をお招きし、訪問リハビリテーションに関する制度の変遷、現在の課題、今後目指すべき方向性まで、時に数値を交えて幅広く示していただきました。

法人内から100名を超えるスタッフが参加し理解を深めるとともに、2020年に米子で開催する第16回日本訪問リハビリテーション協会学術大会(大会長:錦海リハビリテーション病院 副院長 竹内茂伸)に向けて士気を高める好機となりました。



日本訪問リハビリテーション協会 宮田昌司会長による講演の様子

入院時から患者さんやご家族に関わっていきます。



入院時より患者さん、ご家族の話にしっかりと耳を傾けることを大切に、入院後の診療、医薬品情報提供、服薬指導に繋がっていきます。

患者さん一人ひとりの過去の服薬や副作用歴などを確認し、それぞれの状態に合わせた対応を行っています。

薬の専門家として患者さんに身近に感じていただくこと、 地域へ貢献していくことを目指します。

医療が高度化、複雑化していく中、お一人おひとりに最も適した形でお薬が提供できること、安心安全にお薬を使っていただけるよう努めています。

退院時のお薬情報と共に入院中の服薬状況等をお薬手帳を介してかかりつけ医、調剤薬局への情報提供としています。身近にいる薬剤師、地域に貢献できる薬剤師を目指します。



患者さんとご家族への服薬指導

TOPICS 02 松江市脳卒中地域連携パス・ 大腿骨頸部骨折地域連携パス 合同懇親会を開催しました

8月31日、当院角田賢病院長が当番世話人を務め、松江市脳卒中地域連携パス・大腿骨頸部骨折地域連携パスの合同懇親会を開催しました。懇親会には、松江圏域の急性期・回復期を担う8病院より医師、看護師、リハビリスタッフ、社会福祉士等、88名の参加がありました。病院間、職種間を超えて、これからの松江圏域の地域連携、リハビリテーションについて語り合い、交流を深める良い機会となりました。

今後も地域との繋がりを大切に、多機関、多職種で切磋琢磨することで、患者さんにより良いリハビリテーションを提供できるよう努めてまいります。



懇親会にて挨拶をする角田賢病院長